

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット/4階ユニット)

事業所番号	2794100053		
法人名	株式会社 日光ハウジング		
事業所名	グループホームひかり天神橋		
所在地	大阪府大阪市北区長柄西2丁目12番19号		
自己評価作成日	令和4年4月13日	評価結果市町村受理日	令和4年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年5月17日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所以来、当たり前の普通の生活を合言葉に、職員が人としてどうあるべきか、入居者様一人ひとりと、どのように向き合い、支援を通して分かり合えるのかをテーマに取り組みを続けています。まだまだですが、日々努力を続けながら笑顔の絶えないホームを目指し頑張っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない: コロナにより面会は家族
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない: コロナにより2年は実施無し
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない: コロナにより外出は無	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、全職員が理念に基づき、実践出来るように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナにより、面会・地域の方々との交流ができなくなる中、回覧板などを通して繋がりを維持出来るような取り組みは続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括・区役所・地域・多方面の方々とのお付き合いを通し、認知症への理解を深めて頂ける様、多方面からの相談業務なども行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染症が起きてからは密を避ける為、地域・ご家族様等をはじめ外部の方の入館を、お断りしていた為に、運営推進会議の実施は中断しておりますが、FAX等を活用し、意見交換などは続けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設以来、市町村担当者と連携は引き続き取らせていただいている。また、災害時などの場合、地域内の方々を受け入れる防災パートナーとしての役割も担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を毎月開催し、未然に防げるよう、勉強会を通して実践できるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間職場研修勉強会を毎月開催し、身体拘束・虐待・権利擁護について、学ぶ機会を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業等についても研修を通し学び支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け、双方が納得出来るよう、また、後々トラブルにならない様、十分な説明、入居後も随時相談などの対応もさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍に入り、運営推進会議実施が無い為にご家族様とのやり取りは以前よりも頻回に、迅速に、相談・ご意見を繁栄出来る体制を組ませていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、三者会議・全体会議・フロア会議開催、運営に関する意見などを素に反映出来る様なシステムを組んでおります。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新入社員への勉強会、全職員への課題設定、結果を評価し、給与・処遇改善手当等に反映させて頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部への研修などは、2年あまり実施できていませんが、資格取得に向けての取り組みは積極的に取り組みを実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、2年余りは交流はできていませんが、ホーム内でサービスの向上に向けての勉強会、取り組み等は続けております。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、十分な聞き取り、情報を集め、面談をし、安心して生活を送って頂けるよう配慮させて頂き関係性を作らせて頂けるよう取り組みさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分な情報を共有できるように時間を掛け、要望をお聞きし、それぞれの役割を明確にし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意見・要望をお聞きし、ホーム内での生活の中での支援の方向性をプランを通して実践出来るよう取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ない所に目を向けるのではなく、出来る所に目を向け、出来ることをいつまでも出来るように支援させていただき、その過程で関係性を築ける様取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どんなときも相談をさせて頂き、ご家族様のご意見を元に、時には橋渡しをしながら関係性を築ける様支援させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍になる前は、なじみの場所、関係性が途切れない様に支援させていただいていました。状況をみながら随時個別に支援をと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内では、入居者様同士のなじみの関係が構築されている方が多く、そっと見守る支援を続けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を続けており、利用が終了されたご家族様からのご紹介でご入居された方が数多くおられます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に寄り添ってのお話の中から思いや希望を伺っています。一方で入所され経年されるに従い困難であったり、元々思いや希望が無い方やそういう概念がない方も増えつつあり、こちらから本人の意向をくみ取って提案し、それに対する本人のお気持ちを確認して擦り合わせを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	些細な事柄でも入居者さんが入居者さんらしく生活して頂くために把握しています。特に入居時にはこちらの生活に慣れて頂けるようにアセスメントを徹底しています。毎日の生活の場面においても常に本人に寄り添ってお気持ちを聞いていますが、ご家族との連絡も密にして以前の生活情報を把握して今の生活が快適に送れるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者さんの現状は常に変化しますので、朝、遅出及び夜勤者出勤時の申し送り時には申し送りにて情報の共有を徹底しています。その他には、申し送りノート、携帯電話等にて情報を共有して現状の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、基本3か月ごとの見直しになっているので、居室担当者とケアマネが話し合います。確認を始め、必要に応じて職員全員に状態や意見を聞くこともあり、社内の会議の議題に上げて検討をしたりしています。もちろん本人の意向は一番と捕え、家族の要望を伺って包括的に取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は現場を中心にケアマネも記入しています。特記事項は申し送りノートに記入したり、血糖値管理の必要な方はノートを作成するなど情報を共有しています。それらを元に実践や介護計画の見直しに活かしています。入居者の急変及び介護計画の根本的な見直しが必要な場合は、介護保険変更も考慮し必要に応じて申請しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室担当者は担当の入居者の全体的な把握をしており、フローリーダーやケアマネも情報を共有しています。例えば、糖尿病が進んでいる方に対して血糖値管理の徹底として主治医の他に二か所の訪問看護に依頼したり、入居者と居室担当者との外出や外食、自費での福祉用具購入、1階のデイサービスでの他者との交流などを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナによる生活の制限によって、従来からの地域資源の活用を制限されているのが現状です。緊急事態宣言解除時において近隣の公園に行くことによって運動の機会を得てリフレッシュして頂いたり、コンビニに行ってお好きな食べ物を買って楽しみの時間を持って頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、内科医、精神科医、歯科医、訪問看護師、薬剤師の介入もあり、定期的に行っています。特に主治医の内科医には一人一人の入居者の状態を毎日書面化してFAXにて連絡し、主治医から指示を仰ぐことになっています。また主治医へのオンコール対応も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の情報や気づきを介護職員間で共有して訪問看護師の訪問時に相談できるようにしています。(緊急時は主治医の時有)その後訪問看護師の助言を仰いだり、改めて主治医を通しての指示が出たり、会議に上げるような議題になり検討されたりと有効な協働となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した折には、出勤時以外も電話等による連絡により情報が共有できており早急に入院先に連絡を入れて介護情報を提供し退院時の連絡を依頼しています。(家族に連絡する機会が多く家族を通しての連絡を依頼)また入居者情報はフロアーに配置している個別ファイルにて管理されており、職員全員が把握し情報提供ができる状態である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や終末期については、入居時に本人及び家族に話をして要望を確認している。その後状態変化時によって具体的な対応が必要時において、改めて本人及び家族に詳細な話をして書面化している。状態の悪化が予見される入居者については主治医と将来的な相談をすると共に依頼する可能性のある機関にも情報を提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに、個人情報・保険証・介護保険証・おくすり手帳をセッティングし、まずは提携医院へオンコール、支持を仰ぐ、リーダー・管理者への連絡を徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに懐中電灯・ラジオを設置、消防への連絡ツール(伝え方)、災害の場合はマニュアルに沿って行動が起こせるように、避難訓練等を毎年行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	皆さま理解の仕方、考え、思いなど異なる為、声掛けの方法、伝え方は入居者様一人ひとりの性格などしっかり把握したうえで行うように現場では実施している。不適切な言動がスタッフに見られる場合はフロア会議などで注意、改善方法などを話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思をしっかりと伝えられる方には話を聞き、本人様の意思を尊重できるようにしているが、意思をうまく伝えられない方は、工夫が必要になるので日々の生活からくみ取れるように、観察を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険な行為(転倒リスク)など以外は、一人ひとりの意思、行動にそった過ごし方をして頂けるように見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で服を選べる方には、選んで頂き季節に合わない服装の場合は提案させて頂いたりしている。こちらで服を準備させて頂く場合もその方にあった服装を心がけ整容に気を配れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切って頂いたり、器に盛りつけて頂いたり一人ひとり出来るところを一緒にやって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	盛り付け、刻むなどその人に合った状態で提供し食べやすい様に工夫している。水分も好みを把握し好きな物をストックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診に頼る部分もあるが、一人ひとりしっかり口腔ケア行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはその方のペースで行って頂くが、トイレの間隔が開く場合はこちらから声を掛けさせて頂いたりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌の摂取や、体操をして頂くなど心掛けている。それでも溜まってしまう場合は頓服薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人様の希望に沿うように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まだスタッフがすべてを理解しているとは言えない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度にお声がけさせて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日行けていない。外出できる勤務体制を心掛け、本人様の意思を尊重している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様に連絡させて頂いている。手紙は頻繁ではないがお声がけさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。換気を行いながら、季節に合った温度に出来るように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。場所が決まっている方もいらっしゃるが本人様の意思に沿い椅子、ソファなど思いおもいの場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている。本人様の意思に沿い、お部屋の片付けなどはお声がけし一緒に行うように心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。設備上変えられない所は、安全に注意して介助を行っている。		